

## 式 辞

暖かな日差しや大地の芽吹きに、春の訪れを感じる今日の佳き日、PTA会長 高橋慶一郎様をはじめ、ご来賓のご臨席を賜り、保護者の皆様をお迎えして、埼玉県立伊奈学園総合高等学校 第38回卒業証書授与式が、かくも盛大に挙行できますことは、私ども教職員にとりましてこの上ない喜びでございます。

ただいま卒業証書を授与いたしました729名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご卒業に際しお祝い申し上げますとともにこれまで18年間の献身的な子育てに心からの敬意を表します。

さて、諸君の門出に際し私はある言葉を餞にしようと思前目論んでいました。それは「人生には何一つ無駄なものはない」という言葉、小説家 遠藤周作の言葉です。

遠藤はこう述べています。

ひとつだって無駄にしちゃいけない——と言うよりは、我々の人生のどんな嫌な出来事や思い出すらも、ひとつとして無駄なものなどありはしない。無駄だったと思えるのは我々の勝手な判断なのであって、もし神というものがあるならば、神はその無駄とみえるものに、実は我々の人生のために役にたつ何かをかくしているものであり、それは無駄どころか、貴重なものを秘めているような気がする。

我々の人生に起きるとどんな些細な出来事も実はひそかに糸につながれ、ひそかに深い意味を持ち、人生全体という織物を織っているのだ。

いかがですか、思い当たる例を挙げてみますと、受験科目でない手を抜く、清掃は趣味や部活動の時とは身の入れ方があからさまに違う、こわい人にはおもねり忖度し、そうでない人に対しては横柄などなど、諸君には思い当りはありませんか。私にはあります。振り返ると顔から火の出るような思いをするものだから、タイムスリップできるものなら若き自分を叱りつけ、お詫びしたいことがいくつも思い当たります。

文系と理系に分けるのは日本だけだそうです。理系であっても古文や歴史、倫理などを学んで確かな文化教養を身に付ける。文系であっても物理を学んで人工衛星が飛ぶ原理を知り、微分積分を学んで経済指標の理解などに広く応用する。清掃活動や特別活動を通して人格形成に努める。それらが人生を豊かにする。何一つ無駄にはしていなかったのです。

こうした例は過ぎたことですが、これからのこと、諸君の伊奈学園卒業後を展望してみましょう。国立難関大学を目指して中学から脇目も振らず努力を重ね、晴れて第一志望に合格。入学後もまじめに取り組み優秀な成績を収めたのに、自己表現が苦手なため卒業間近になっても就職が決まらないという卒業生の話。あるいは就職して3か月もたたないうちにやめたい、理由は職場になじめなかったから、という卒業生。このような話を教師はたくさん聞いてきました。大学で学ぶ専門性だけでは実社会に通用しない。さて諸君、伊奈学園の卒業後の自分をどのように思い描きますか。

近年社会が諸君に求めるのはやる気、主体性、柔軟性、コミュニケーション能力、レジリエンス、GRITというような、いわゆるコンピテンシーといわれる力です。これらは英検のような資格とは違います。どう違うか、決定的な違いは汎用性にあります。英検1級を取得して中国語の通訳にはなれませんが、英検1級を取得する過程で身に付けたコンピテンシーは、中国語修得にも、三ツ星レストランのシェフにも、どのような職業に就くのにも役に立つ。コンピテンシーは応用が利く、汎用性があるということ。

変化の激しい社会とは言い古された感がありますが、地球環境も国際情勢も何もかもが想像を超え目まぐるしく変動する社会だからこそ、諸君に求められるのはコンピテンシーなのです。

しかしながら、言うは易く行うは難し。手厳しい指導をされる教授や上司とは接したくないもの、友人のとげのある物言いに心折れる日もあるし、安きに流されてしまう時もある。そもそも諸君はまだ何者でもない、寄る辺ない存在。精神的に不安定なまま五里霧中にさまよい続ける状態だから、本当にやり遂げられるのか、大丈夫なのか、親御さんも私たちも心配でなりません。ですが誰より当事者たる諸君こそが、迷い、あがきつつ、おのれの人生を歩んでいかななくてはなりません。

迷いの生じたとき、投げ出したい衝動にかられたとき、先人の知恵は己を叱り励まし、進むべき道を照らしてくれるものです。諸君には「人生には何一つ無駄なものはないのだ」と固く肝に銘じて、自分が直面する現実を選び好みせず、あらゆることに心を開き、誠実かつ真摯に歩んでほしいものです。

と、ここまで述べてきながら、なおためらいがぬぐい切れずに残るのです。それは、元日に能登半島で大きな地震がありました。被災された方々に衷心からのお見舞いを申し上げます。東京で勤める娘に、コロナも落ち着いてきたし、今年こそ正月には帰っておいでと促して、家族みんなで新年を迎えたその日の夕方に娘を亡くした母は、どのような思いでこの2か月半を過ごしたのでしょうか。そのような方を前にして「人生には何一つ無駄なものはない」と果たして言えるものでしょうか。ためらいとはこのことです。今週は東日本大震災から13年ですが、ためらいは震災に限りません。ウクライナやガザ、ミャンマーで暮らす人々は、余命宣告を受け今年の桜が見納めかと思える人は、障害のある子を授かり、子の将来を案じ、自分を責めるお母さんは、徴兵に応じ戦場で地雷を踏み足を失った兵士は、「人生には何一つ無駄なものはない」と言われて果たして腑に落ちるのでしょうか。

遠藤周作は若いころカトリックの洗礼を受け、キリスト教小説を多く残しました。ですがそれらは単なる宗教礼賛ではありません。それは小説をとおして、さまざまな人生の在りようを描き、人生の本質をとらえようとする、迂遠な試みでした。

例えば『沈黙』では、江戸時代初期にキリシタンとして弾圧される民衆とポルトガル人司祭の苦悩を描き出します。また『深い河』では、これは私にとって特別な小説なのですが、太平洋戦争に徴兵され、インパール作戦に参加したという人生。ビルマのジャングルで死んだ戦友の肉を口にして飢えをしのぎ、奇跡的に生き延びたものの、戦後自責の念に駆られ、アルコールに依存し、惨めな生涯を送りながらも臨終の間に救いを得て、という人生を鮮やかに描き出します。遠藤は次のように述べています。

人間は、自分の自由意思であれこれ選択することができるのではなくて、自分が持って生まれた状況のすべてを、肩に背負って生きていかななくてはならない。少なくとも人生の中にはこういう部分がたくさんあります。

そう言う遠藤自身も志低くなった時に幾度も読み返したというV. E. フランクル『夜と霧』には、アウシュビッツ収容所での次のようなくだりがあります。

私は仲間たちに語った。横たわる仲間たちはひっそりと静まり返り、ほとんどびくりとも動かなかった。せいぜい、時折かすかにそれとわかるため息が聞こえるだけだった。人間が生きることには、つねに、どんな状況でも、意味がある、私たちの状況の深刻さを直視して、なおかつ意気消沈することなく、勇気もちつづけて

ほしい、と語った。私たちひとりひとは、この困難なとき、そして多くにとって  
は最期の時が近づいている今このとき、だれかの促すようなまなざしに見下ろされ  
ていると私は語った。だれかとは、友かもしれないし、妻かもしれない。生者か  
もしれないし、死者かもしれない。あるいは神かもしれない。そして、私たちを見下  
ろしている者は、失望させないでほしいと、惨めに苦しまないでほしいと、そう  
でなく誇りをもって苦しみ、死ぬことに目覚めてほしいと願っているのだ、と。

私は絶滅収容所で過ごしことはおろか、1日とて何も口にしない日を過ごしたことさ  
えありません。ミサイルがいつ着弾するか恐怖におののき眠れぬ夜を過ごしたこともあ  
りません。両親の最期を看取り、その都度涙しましたが、最愛の人を突然奪われ「なぜ自分が  
このような目に遭うのか」と嘆いたことはありません。障害のある子を抱え世間と闘った  
ことも、死を宣告されたこともありません。ですからどのような人に対しても「人生に  
は何一つ無駄なものはない」と言うのはためられる。ですが、それでも、自分の浅は  
かな経験を超えて人類の経験に学ばば、絶望の淵に立たされてなお、失っていけないのは、  
人としての尊厳なのだ気づかされます。そして「人生には何一つ無駄なものはない」  
というのは、真実であると確信します。

もとより私は、諸君の前途で災害や戦乱や、死の宣告に直面することがないよう祈る立  
場です。が、E. キューブラー、ロス、ボーイフレンドやガールフレンドと別れたとか、  
失業したとか、50年間住み慣れた家を出て老人ホームに入るとか、もっと身近に、飼  
っていた小鳥に逃げられたりコンタクトレンズをなくした時も、程度の差こそあれ、当人  
にとっては人生のクライシス「小さな死」なのだと思います。このような小さな死なら、  
諸君もすでに直面してきたはずですし、その都度克服したり、避けたりしたでしょう。諸  
君には、誠実かつ真摯に臨み、うまく行こうが行くまいが、惨めに苦しまないで、人  
としての尊厳を固くする経験を積み上げてほしいのです。

私はこの言葉に出会って以来、いつも心の片隅にあって、ことあるごとに生徒に先生  
方に、ちょっと偉そうに引用してきました。振り返ると、教師の仕事は例外なく「人生  
には何一つ無駄なものはない」に集約されていると気づかされます。そう気づかされて、  
あたかも長い登山の末に頂に近づいて、視界が一気にひらけ世界を眺望しているよう  
な心境です。

結びに、ベートーベンも「すぐれた人間の大きな特徴は、不幸で苦しい境遇に、じ  
っと耐え忍ぶことができることである」という言葉を残しています。多くの先人が私  
たちを励まし鼓舞するのです。

ですから伊奈学園第38期卒業生諸君、背筋を伸ばしなさい。胸を張りなさい。そして  
困難に正面から臨む気構えを固めましょう。困難を乗り越える勇気を奮い起こしましょ  
う。くじけそうになった時は、友が、家族が、伊奈学園の恩師が、たとえ近くにいなく  
ても、諸君のことを思い応援していることを思い起こしてください。諸君の前途に栄光  
あらんことを祈念し、式辞といたします。

令和6年3月14日

埼玉県立伊奈学園総合高等学校長 浅賀 敏行